

# ドル/円相場のトレード戦略

## ■ 中長期展望

昨年末は米国の大統領選挙でトランプ氏が勝ったことにより、同氏の大型減税やインフラ投資政策、金融規制の緩和期待などから米景気加速を先取りする形でドルが上昇し、ドル/円は2ヶ月で20%近い大幅な上昇となりました。

【ドル/円 週足】



このドルの上昇は、それまでに積み上がっていたドルショート巻き戻しが先行し、その後ドル上昇を予想する投機筋によって一段と買い上げられたことによって急進しました。そのため、日本の投資家や実需筋は一気に上伸してしまった相場についていけず、ドルの買い遅れが目立つ形となっています。

しかし、本邦勢が期待するドル買い水準はかなり低く、相場が一旦調整モードに入ると、下押しは深くなる可能性があります。目処としては110円～113円水準を考えます。

調整入りのきっかけとしては、米財政政策の中身が期待はずれとなることや、国内生産を重視する新政権が円安けん制発言をすることなどが考えられます。

ただし、仮に大きな調整が入ったとしても、新政権の財政政策がドル高促進的なものであると期待させる限り、ドル高基調に変化はないものと思われます。

その場合は、ドルは一昨年の高値を抜け、130円水準が視野に入ってくる可能性も否定できません。ドル上昇を基本シナリオとした場合、リスクもはっきりしており、それはトランプ政権が実際に打ち出す政策が市場を失望させるものであり、米景気に陰りが出てくることであると考えられ、トレ

# ドル/円相場のトレード戦略

---

ードに際しては米景気動向に注意していく必要があるでしょう。

## ■ 短期展望

先週は、トランプ米新政権や米 12 月雇用統計への期待から、年明け相場で昨年末の高値に迫る 118 円 60 銭をつけてスタートしました。

しかし、新政権がドル高を抑制する政策を取るのではないかとの警戒感もあり、ポジション調整の動きで 115 円台まで反落、その後米雇用統計の結果が良好だったことを受けて 117 円近辺まで値を戻して週を越えました。

今週もドルロングの調整が継続する可能性があり、今週予定されているトランプ新大統領の会見での発言しだいでは、113 円台まで下押しするリスクを想定します。

ただし、ドル高基調に変化があるわけではなく、押し目ではドル買い意欲も強いため、当面は 113 円～118 円での値動きの荒い展開が予想されます。